

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	21229005	研究期間	平成21年度～平成24年度
研究課題名	マウスモデルを用いた消化器癌転移の研究	研究代表者 (所属・職)	武藤 誠（京都大学・大学院医学研究科・教授）

【平成23年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A 当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	B 当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C 当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
<p>(意見等)</p> <p>本研究は、独自に作出した遺伝子改変マウス類を用いることで、大腸癌の転移機構を解明し、新たな治療戦略の確立を目指している。研究の3つの柱のうち、「癌転移における未分化骨髄球の研究」においては、CCR1抗体の選出で問題が生じたものの、実験方法を修正することによって初期の研究戦略に支障をきたすことなく、大腸癌転移の細胞内シグナルに関する包括的研究がほぼ計画どおり進展している。これまでの成果は国際的一流雑誌に掲載され、マスメディアでも数多く取り上げられていることも評価できる。</p> <p>研究内容は独創性が高く、癌細胞生物学の発展に寄与できる研究成果が集積されるであろう。研究のゴールである新たな治療法開発にさらに近づくような成果が生まれることを期待したい。</p>	

【平成25年度 検証結果】

検証結果	<p>研究代表者の多年にわたる地道な研究により腫瘍の転移メカニズムの解明が大きく進展した。本研究により（1）転移の水先案内をする未分化骨髄球の本体の解明、転移促進機構の解明、（2）Aes/Notchによる制御機構の解明とAes蛋白の発現低下ヒト大腸がんの悪性度、遠隔転移の相関解析、（3）大腸がんの進展に関するシグナル機構の解明が着実に進み、当初の目的を達成した。この成果が治療法開発に結実することを期待する。</p>
A	